

# 競技注意事項

## 1. 規則について

本大会は、2007年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

## 2. 国立競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリア、ダッグアウトへの立ち入りを禁止する。
- 2) 更衣室は指定された場所を厳守して使用すること。また、荷物は各参加校で責任を持って管理すること（更衣室は各日使用した参加校が清掃をすること）。なお、更衣室での場所取りは禁止する。
- 3) 競技場は全天候舗装である。なお、スパイクについては競技規則第143条「競技用靴」の項を参照のこと。
- 4) トレーナー活動場所は、更衣室前の室内練習場に限る。また、ここでのトレーナー活動は、事前に大会事務局の許可を受けた参加校に限る。
- 5) 競技場内でのすべての電源を各自の参加校で使う目的で使用することを禁止する。

## 3. 練習について

- 1) ダッグアウト、コンコース（回廊）での練習、また、国立競技場周辺での集団走は事故防止のため厳禁とする。
- 2) 練習場所については、国立競技場ランプ下直走路・砂場および東京体育館の陸上競技場のみとする（投てき種目を除く）。
- 3) 投てき種目の練習は、投てき審判員の指示に従い競技場で行う。各種目とも2投までとする。
- 4) 棒高跳の練習は、ゴムひもを利用して行う。

## 4. ナンバーカードについて

ナンバーカードは1人につき2枚配布する。

トラック競技の場合は腰ナンバー標識をつける（競技者係で配布し、レース終了後回収する）。

ナンバーカードの地色、数字の色は下記の通りとする。

男子	黄色地×黒数字
女子	ピンク地×黒数字
5000m・10000m・10000m競歩	白地×黒数字

5000m・10000m・10000m競歩出場者には、招集の際に白地×黒数字のナンバーカード(レース用)を配布する。この時、事前に配布しているナンバーカードを確認し、上記のレース用ナンバーカードを配布するので、必ず配布したナンバーカードを持参する。また、このレース用ナンバーカードは、腰ナンバー標識と同様にレース終了後回収する。なお、上記の3競技については両腰につける。

## 5. 競技者の招集方法について

- 1) 招集所は北入口付近（100mスタート地点後方）に設置する。
- 2) 各種目の招集時刻は下記の通りとする。なお、下記の招集完了時刻は競技日程を基準として設ける。

		予選				準決勝・決勝			
トラック 競技		100m・200m・1500m 100mH・110mH		400m・800m・400mH 3000mSC・4×100mR・4×400mR		トラック全種目			
	組	開始	完了	組	開始	完了	開始	完了	
	1～2	競技開始 25分前	競技開始 15分前	1～2	競技開始 25分前	競技開始 15分前	競技開始 25分前	競技開始 15分前	
	3～4	" 15分前	" 5分前	3～4	" 20分前	" 10分前	/		
	5～6	" 5分前	" 5分後	5～6	" 15分前	" 5分前			
7～	" 同時刻	" 10分後							
フィ ールド 競技	決勝								
	棒高跳		他の跳躍競技		投てき競技				
	開始	完了	開始	完了	開始	完了	開始	完了	
	競技開始 100分前	競技開始 90分前	競技開始 50分前	競技開始 40分前	競技開始 40分前	競技開始 30分前	競技開始 40分前	競技開始 30分前	

※ハンマー投予選の招集は代々木公園陸上競技場で行う。

- 3) 混成競技の招集時刻については、9. - 5) 混成競技についての a. 項を参照のこと。
- 4) 競技者の競技エリアへの入退場は担当審判員の指示による。
- 5) 代理人による招集は認めない。ただし、競技者が他の同時進行種目に出場する場合は「重複出場届（招集所に用意）」を競技者係に提出すること。
- 6) 招集完了時刻に遅れると、当該種目に不出場のものとして処理するので、注意すること。
- 7) リレー種目は、オーダー変更の有無に関わらず、ラウンドごとに「リレーオーダー用紙（招集所に用意）」に走順とナンバーを記入（決勝でエントリー時の6名以外の競技者が出場する場合は氏名も記入する）の上、招集完了時刻（予選においては第1組目の招集完了時刻）の1時間前までに競技者係に提出すること（メンバーについては競技規則第170条を参照のこと）。

#### 6. 不出場（棄権）について

やむなく欠場する場合は、「不出場届（大会本部指定の用紙、インフォメーション・センターに用意）」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。  
また、監督代表者会議で不出場を申し出た場合は、改めて「不出場届」を提出する必要はない。

#### 7. 番組編成について

- 1) フィールド競技の試技順はプログラム記載順とする。
- 2) 準決勝以降の組み合わせ及びレーン順・試技順は主催者が抽選する。
- 3) 同タイムの競技者（チーム）があり、レーンが不足する場合は、写真判定員が同記録者の写真を拡大して、タイムだけでなく、より細かく優劣を判定して次のラウンドへの進出者を決める。それでも決まらない場合は、当該競技者もしくはその委任を受けた代理人により抽選を行い決定する（競技規則第167条を参照のこと）。

#### 8. 用器具について

競技に使用する用器具は全て主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりについては主催者借り上げの用器具として使用する場合のみ個人所有のものが使用できる（やりは事前に配付された投てき物一覧以外のものに限る）。その場合、招集完了時刻1時間前までに用器具庫（南入場口）で検査を受ける。個人所有の用器具の返却は当該競技終了後、用器具庫で行う。

#### 9. 競技について

- 1) 跳躍競技（高さで順位を決定する競技）のバーの上げ方は下表の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	以降
男子走高跳	1m95	2m00	2m05	2m10	2m13	2m16	2m19	+3cm
男子棒高跳	4m70	4m80	4m90	5m00	5m10	5m20	5m25	+5cm
女子走高跳	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	1m76	1m79	+3cm
女子棒高跳	3m00	3m10	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	+5cm

なお、競技者の優勝が決まった後、もしくは、複数の競技者が日本記録にバーを上げる場合、当該種目審判員または審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

- 2) 計時・計測について

トラック競技の計時はすべて写真判定装置を用いて行う。投てき競技は光波計測とする。ただし、砲丸投およびハンマー投予選に関してはスチールメジャーで計測する。

- 3) 給水について

気象状況により5000m以上の競技において給水（水・スポンジ）を行うことがある。なお、給水後、コップ・スポンジについては他の競技者の妨害にならないように捨てること。

- 4) ハンマー投について

ハンマー投予選（男女とも）は、代々木公園陸上競技場で行う。  
決勝（男女とも予選上位12名）は国立競技場で行う。各競技者の投てき回数は、練習2投、試技3投とする。その中の上位8名はさらに3投の試技ができる。

- 5) 混成競技について

- a. 招集は1日目、2日目の最初の競技種目開始時刻の30分前に招集所で完了する。以後の招集は行わないので、競技者は次の種目から混成競技者控室に待機し、混成競技係の指示を受けること。
- b. 混成競技者控室について、男子は更衣室C、女子は更衣室Dを使用すること。
- c. 混成競技者控室への付添い、コーチ等の出入りは認めない。

- d. 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下表の通りとする。

			練習	1	2	3	4	5	6	7	以降
十種	走高跳	低	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	+3 c m
		高	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	1m96	1m99	+3 c m
	棒高跳	低	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	4m10	+10 c m
		高	3m80	4m00	4m10	4m20	4m30	4m40	4m50	4m60	+10 c m
七種走高跳		低	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	+3 c m
		高	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66	1m69	+3 c m

#### 10. 表彰および対校得点について

- 各種目第3位までに入賞した競技者には賞状とメダルを贈与するので、競技終了後、表彰係の指示に従うこと。また、第8位までに入賞した競技者には賞状を贈与するので、競技終了後インフォメーション・センターにて受け取ること。
- 表彰を受ける際は、上衣は各校の公式ユニフォーム（ナンバーカード貼付）、下衣は公式ジャージを着用する。
- 対校得点は、各種目1位…8点、2位…7点、3位…6点、4位…5点、5位…4点、6位3点、7位2点、8位1点とする。
- 対校得点が同点の場合は上位入賞種目の多い方を上位とする（優勝種目数が同じであれば2位入賞種目数の多い方を上位とする。以下同様）。

#### 11. 抗議と上訴について

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者によって結果が正式発表（電光掲示）されてから30分以内（予選、準決勝は15分以内）に、担当総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間内に申し出がなかった場合は何ら問題がなかったものとみなされる。抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議をする場合は、上訴申立書と、預託金10,000円を添えて上訴する。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。この間の事務的処理は担当総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する（なお、抗議の受付窓口はインフォメーション・センターとする）。

#### 12. 商標等について

競技者が競技場に商標名のついた衣類、バッグ等を持ち込む場合は、「競技会における広告および展示物に関する規程」の項を遵守する。基準をこえる商標については必ずガムテープ等を貼って隠すこと。

#### 13. 衣類の管理について

- 競技者は、招集所で配付する袋を衣類・バッグ等の管理に使用することができる。
- トラック競技ではスタート前に脱衣した衣類等を1)の袋に入れ、指定された場所に置く。これらの衣類は、フィニッシュ地点付近に運ばれるので、各自で受け取り退場すること。ただし、4×100mは衣類の運搬を行わない。

#### 14. ドーピング検査の実施について

出場競技者に対するドーピング検査を実施する。検査対象に指名された場合は、担当役員の指示に従うこと。

#### 15. その他

- 競技者はビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバー、携帯電話または、それらに類似する機器を競技エリアに持ち込んで서는ならない（競技規則第144条参照）。
- IDカードについて  
下記の区域に立ち入る者は、以下の通り必要となるIDカードを所持していなければならない。出場競技者も必ずIDを着けること。ナンバーカードでの競技エリア内への入場は認めない。

区域	必要とするID（いずれか1つで可）
メインスタンド下部施設	各種IDカード、招待状、報道ID・ビブス
競技実施エリア・ダッグアウト	各種IDカード、報道カメラ用ビブス

#### 3) 応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医師が応急処置を行うが、その後の治療費等は本人負担とする（ただし、「日本学生陸上競技総合補償制度」が適用される）。また、事故の結果について本連合では責任を負わない。

4) 盗難・紛失について

大会期間中に主催者に届けられた物品等については一時的にインフォメーション・センターで保管するが、その他の盗難・紛失に関しては責任を負わない。

5) 応援について

- a. メインスタンドでの部旗・横断幕・のぼりの掲出は禁止する。所定の場所に部旗・横断幕を掲出する場合は、必ずひもを利用する（ガムテープ等は使用しないこと）。また、のぼりの掲出は人が手で持つ方法以外は禁止する。
- b. 集団応援は、バックスタンド中段の予め指定された場所で行うこと。
- c. メガホン・鳴り物等による応援は一切認めない。

6) 国立競技場の開閉門時刻について

第1日目【6月8日】 7時30分

第2日目【6月9日】 7時30分

第3日目【6月10日】 7時00分

※閉門時刻については各日競技終了後にアナウンスする。

開・閉門時刻は厳守すること。

7) 駐車場について

参加校の車輛は場内の駐車場に駐車することはできないので、一般有料駐車場を利用すること。

8) 観客席の使用について

ロイヤルボックスおよび記者席への立ち入りを禁止する（含む一般客）。

9) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること（競技場ではインフォメーション・センターを通して大会本部に問い合わせること）。